

荒尾市民病院中期経営計画の実施状況に関する 点検・評価報告書が提出されました



「荒尾市民病院あり方検討会」（会長小野友道 熊本保健科学大学学長）は、総務省が策定した公立病院改革ガイドラインに基づき、「荒尾市民病院中期経営計画」に関する点検・評価を行い、報告書を取りまとめました。

図 政策企画課 ☎ 63・1273

点検・評価報告書を手渡す小野会長（中央）、高橋副会長（左）と、受け取る前畑市長（右）

平成 22 年 12 月 6 日（月）、小野会長および高橋洋副会長（荒尾市医師会会長）から、「荒尾市民病院中期経営計画の実施状況に関する点検・評価報告書」が市長へ提出されました。

市では今後とも、荒尾市民病院が健全な経営のもと、質の高い医療を将来にわたって安定的に供給し、地域住民の皆さんに愛され、信頼される病院になるため、報告書の内容を最大限尊重し、着実に改革を進めていきます。



▲「持続可能な病院経営を目指すうえで、平成 21 年度は大きな一歩を踏み出したものと考えられます」と小野会長

● 経営効率化の視点

平成 21 年度の荒尾市民病院の決算状況については、荒尾市医師会の協力などによる 3 人の医師の増員や、地域の医療機関と連携する『地域医療支援病院』の承認を得たことなどから、増収増益となり、約 1 億 7 千万円の純利益が生じた。その結果、前年度繰越欠損金 42 億 5 千万円から 40 億 8 千万円へ改善するなど、全般的には順調に進んでいる。

ただし、病床利用率など目標に達していない項目もあるため、今後も目標達成に向けた経営努力が必要であり、また、医師や看護師の確保について積極的に内外に PR することが求められる。

報告書の主な内容

● 再編・ネットワーク化の視点

現在、病院施設や設備などの老朽化が進んでいて、代わりとなる施設の建設には長期間を要すると見込まれる。経営基盤の安定化と並行しながら、新病院などの建設に向けた検討も取り組む必要がある。

そのためにも、大牟田市および有明医療圏の中で、それぞれの中核病院が担うべき機能を明確にし、どのように地域全体で医療の質を確保するかを検討し、有明医療圏の公的病院などにおける再編・ネットワーク化の方針を定める必要がある。



▲熊本県内の緩和医療に携わる医師や医療スタッフを対象にした「荒尾市民病院緩和ケア研修会」を開催

※報告書の詳しい内容は、ホームページに掲載しています。
ホームページアドレス <http://www.city.arao.lg.jp>

新年明けましておめでとうございます。昨年は、多くの市民の方々に本院の運営にご理解いただき、誠にありがとうございました。うございませう。

「市民を愛する、市民に愛される病院へ」のキャッチフレーズの如く、今年も市民の信頼に応えられるよう、職員一丸となって安全で質の高い医療サービスを提供していく所存です。

本院は、病院理念として、「荒尾市民病院は、地域住民の健康・維持、増進に努め、患者中心の安全で質の高い医療の提供を目指します」と掲げ、実践して参りました。そういう中で、国が推進する4疾病5事業の拠点病院づくりにおいて、「地域がん診療連携拠点病院」の指定を受けることができました。ことは、非常に意義あるものでした。手術、化学療法（抗がん剤治療）、放射線療法は、「がん治療」の三本柱と言われています。手術療法は、完全鏡視下胃幽門側切除術のように、傷が小さく低侵襲の患者さんにやさしい手術を、外科を始め複数の科で行っています。

新年のごあいさつ

病院事業管理者 大嶋壽海

放射線治療は、現在の放射線装置が古くなり、最新の装置への入れ替え工事を新年早々に開始し、放射線治療専門医と2人の専門技師で、最新の放射線治療を提供致します。

一方、化学療法は、安心して治療に専念できる外来化学療法室を備え、がん化学療法認定看護師が専任で携わっております。

また、その他の拠点病院についても多くの取り組みを行っています。中でも脳卒中は、「急性期脳卒中拠点病院」として、3人の脳外科医師が勤務し、脳卒中が発症した多くの患者さんの治療に当たっております。心筋梗塞においては、24時間いつでも心臓カテーテルができ、重症の患者さんを収容するHCUを備えています。生活習慣病の糖尿病についても、地域医療機関の先生方との連絡を密にし、患者さんへの治療と指導を行っています。

今年も、地域中核病院として「いい病院づくり」に励みますので、どうぞよろしくお願いいたします。

インフルエンザ対策

～エアテントの整備～

医療用緊急エアテント（陰圧テント。写真）は、新型インフルエンザ対策として他の患者さんから隔離し、診療ができるように開発された空気式のテントです。

このテントの特徴は、テント内部の気圧を外部よりも下げ、汚染された室内の空気を外部に拡散することを防ぎます。また、数分で写真のように組み立てられ、総面積は、30㎡の広さがあり、発熱外来や隔離スペース、待合スペースなどとして利用可能です。インフルエンザに限らず、感染力の高い疾病の診療には大変有効な設備となります。

日頃からの感染防止には、咳エチケット・手洗い・うがいを習慣にしましょう。



無料です！
どうぞご参加
ください！

循環器内科から

講習会を開催します

テーマ●心臓病の運動療法の知識と実践
心臓病の運動ってどんな事をするのでしょうか。今回は心臓病の運動の知識と実践について勉強します。簡単な体操も一緒に行います。

講師●立石英夫・本村衣吏（理学療法士）
日時●1月28日（金）午後3時～4時
場所●地域医療研修センター（南病棟4階）
市民病院総務課 ☎ 63-1115（内）511

～看護師 随時募集中！～

詳しくは荒尾市民病院ホームページをご覧ください